

4 技能 5 領域を統合的に結びつけながら 教科書の内容理解を深める ーコミュニケーション英語Ⅱにおける授業実践報告ー

英語科 遊 馬 智 美

1. はじめに

新学習指導要領（平成 30 年告示）では外国語科の目標が改善され、「児童生徒の学びの過程全体を通して、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、繰り返し思考・判断・表現することを通して獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である」とあり、生徒がただ教科書を読んで理解するだけで終わるのではなく、読んだことを使って自分の考えを書いたり、議論したり、発表したりする活動につなげていくことで、知識・技能を身につけ、理解を深めていくことを目標としている。また、新しく設定される「英語コミュニケーション」の科目においては、複数の領域を統合的に結びつける言語活動を取り入れながら、4 技能 5 領域を総合的に指導することが求められている。授業の中で、2 つ以上の領域を統合的に結びけることで、教科書の内容をよりよく理解し、関連する英語表現を使う機会を与えることが可能になる。本稿では、現行科目の「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業において、内容理解を深めるために取り入れた 4 技能 5 領域を統合した言語活動を紹介する。

2. 扱った単元について

2.1. 教科書・題材

PROMINENCE English Communication II（東京書籍）

Lesson 6 “Does It Spark Joy?”

海外でも活躍している片付けコンサルタントの近藤麻理恵氏を取り上げたレッスンである。触ったときにときめく（spark joy）かどうかでモノを捨てるかを判断していく「こんまりメソッド（KonMari Method）」では、部屋や家を片付ける過程において、自分自身の人生と向き合い、考えや人生観をも整理し、変えていくことができる。片付けや掃除に関する表現が多く含まれている。

2.2. 単元全体の指導計画

この単元は全 12 時間を使って、次頁の表のように授業を行った。教科書本文の内容理解をパートごとに行いながら、内容理解を深めたり発展させたりするために教科書本文やそれ以外の教材を用いた言語活動を取り入れた。表の一番右の列には、本文内容理解以外の主な活動で使用した言語領域を記しており、⇒は別の領域につなげたことを表している。ほとんどが 4 技能 5 領域のうち 2 つ以上の領域を統合的に結びつ

けた活動となっている。

表 Lesson 6 指導計画

時間	教科書本文	本文内容理解以外の主な活動	4 技能 5 領域
1		レッスン全体の oral introduction watching a video	聞くこと
2		watching a video summary writing	聞くこと ⇒ 書くこと ⇒ 話すこと [発表]
3	レッスン全体 Part 1~4	教科書外の reading 1 教科書本文の通し読み opinion writing	読むこと 読むこと ⇒ 書くこと
4	レッスン全体 Part 1~4	group discussion reporting	⇒ 話すこと [やりとり] ⇒ 話すこと [発表]
5	Part 1	opinion writing	書くこと ⇒ 話すこと [やりとり]
6	Part 2	retelling	話すこと [発表] ⇒ 書くこと
7	Part 3		
8	Part 4		
9		教科書外の reading 2	読むこと ⇒ 書くこと
10	章末問題 まとめ		
11		speech (Show & Tell)	話すこと [発表]
12		speech (Show & Tell)	話すこと [発表]

3. 4 技能 5 領域を統合的に結び付ける活動

3.1. 「聞くこと」を「書くこと」、「話すこと [発表]」につなげる活動

[1 時間目・2 時間目]

このレッスンの題材を導入する oral introduction の中で、まず教師が「捨てられないもの」について英語で話をした。これまで訪れた美術館などのチケットを貼りつけたスクラップブックを生徒に見せながら、大切なものであることを説明した。これは、このレッスンのまとめの活動となる「捨てられないもの」のスピーチのモデルとなった。

続いて、教科書を開く前に背景知識として近藤麻理恵氏はどのような人物でどのようなことをしているのかを理解させるために Netflix の同氏の番組である “Tidying Up

with Marie Kondo”の1エピソード“Breaking Free from a Mountain of Stuff (ガラクタとの決別)”を日本語字幕、英語音声で約40分間視聴させた。このエピソードでは、あふれかえるモノを減らして人生を変えたいという2人の子持ち夫婦が近藤氏のアドバイスを受けながら家を片付けていく過程を通して、モノに関する考え方だけでなく、人生観をも変えていく様子が描かれており、教科書に抽象的に書かれている「片付けを通して人生を変える」ということが具体的にどういうことなのか生徒が理解するのに役立つと考えた。

動画を見る前に、ワークシート(資料1)を使って、ペアで近藤氏について知っていることを話し合い、さらに自分が知っている「捨てる」「片づける」を意味する英語表現をリストアップした。動画を見ながら、新しい表現に出会ったらリストに加えるように指示した。

動画を見た後に、動画の内容を英語で要約する時間を設けた。生徒は後に要約を書くことを意識して、メモを取りながら動画を見ていた。この時点の writing では、生徒はまだこのレッスンのポイントとなる「捨てる」「片づける」「人生観」などの表現について知らない、または正しく使うことができていない。Focus on Form のアプローチで、まずは意味理解を中心に英語を実際に使ってみて、どのような英語で書くのか、どのように表現を使ったらいいのかなど、自分に何が必要かを気づかせたかった。そのあとに、教科書の本文を読み進めていくと、自分が英語で書きたかった表現を見つけることができるため、そこで使い方やポイントを説明することでより生徒が関心を持ち、理解を深めることができるだろうと考えた。

最後に、書いたことを4人グループの中で順番に発表させ、動画から聞いて理解したことを書く・話す[発表]活動までつなげていった。同じ40分間の動画を見て要約を書いても、生徒によってフォーカスするポイントが違っていたり、使っている英語表現が異なっていたりするため、他の生徒がどのようなことを発表するか興味を持って話を聞いていた。また、それぞれの発表の後には発表者の右隣に座っている生徒が質問またはコメントを英語でするように指示し、英語でのやりとりも促した。

3.2. 「読むこと」を「書くこと」、「話すこと[発表]」、「話すこと[やりとり]」につなげる活動

[3・4時間目]

動画で見た *KonMari Method* の内容を復習するために、近藤氏の著書の英語版である“SPARK JOY”の一部(pp. 4-8)を生徒に読ませた。このメソッドで使われる6つのルールについて説明されている4ページを、2人組で1文ずつ順番に音読させた。難しい語彙がいくつか含まれているが気にせず読み進めて、どのようなルールかをビデオで見た内容と関連させて理解するように指示した。オーセンティックな教材を用いることで生徒の興味を引き、実際に世界中でこのメソッドが話題になっていることを実感させたかった。同時に、英語の母語話者向けに書かれた本でも高校2年生の英語力で

十分読めることも伝えたいと思った。

KonMari Method の背景知識を得たところで、教科書の新出単語を確認した後に、教科書本文を Part 1 から Part 4 までレッスンを通して各自で読む時間を与えた。生徒は2つの質問 “What is the *KonMari Method*?” “Do you think the method is effective?” について考えながら読み、英語で自分の考えをまとめた。1つ目では *KonMari Method* とは何かを自分の言葉でまとめ、2つ目ではそのメソッドが効果的だと思うかどうか自分の意見を書いた。生徒は、writing の際に参考にとられる箇所に線を引いたり、キーワードに印をつけたりしながら読み進めていた。動画で見た内容を今度は文字でしっかり読んで確認しながら、内容を整理し、動画では聞き逃してしまった「片づける」「捨てる」などの表現を writing で意識して使うことができると考えた。

次の時間には、4人グループでそれぞれ書いたものをもとにしながらディスカッションをする時間を設けた。15分間で、*KonMari Method* は効果的かどうか、グループの結論を出すことを目標として話し合いを行った。以下の図1のように、4人それぞれに役割を与えて、ディスカッションを進めさせた。Facilitator の生徒を中心に、動画で見たこと、教科書で読んだこと、自分で考えて書いたこと、また自分のこれまでの経験をもとに話し合いを進め、結論を導いた。そのあと、3分間でクラスにグループの結論を伝えるための準備をした。発表の際の visual aids として、紙に箇条書きでグループの結論とその理由を書かせた(資料2)。Effective か Not Effective を決め、その理由を書くというフォーマットをディスカッションの前に例示した。生徒たちは最後の発表を意識して話し合いを行った。各グループ1分間で、Reporter の役割の生徒が visual aids を見せながら、話し合った内容を説明した。グループによって、結論やその理由が異なっており、生徒たちは興味を持ってそれぞれの発表を聞いていた。グループの中の役割として Reporter を決めることで、普段は自発的に手を挙げて発言しない生徒にも発表の機会が与えられ(じゃんけんで負けたと思われる)、英語が苦手ながら懸命に伝えようと頑張る生徒がいたり、非常に簡潔に上手に話す生徒もいたり、自由な発表の中で互いに学びがあった。

これらの活動を通して、おおまかに教科書のポイントを理解し、自分の意見を持つこともできた。次の時間からはパートごとに少し細かく内容や、英語表現等について確認し、理解を深め、より正確に教科書の表現が使えるように授業を行った。

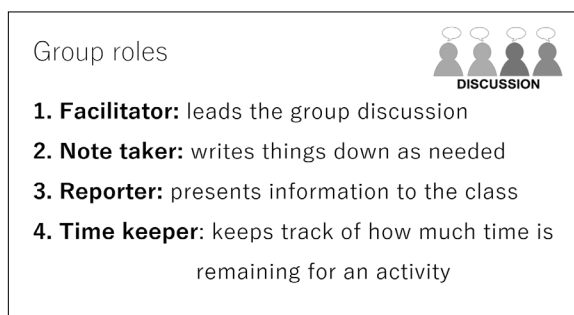


図1 ディスカッションにおける役割分担



図2 Reporter が発表する様子

3.3. 「書くこと」を「話すこと [やりとり]」につなげる活動

[5 時間目]

Part 1 を読み終わったところで、clean, tidy, messy などの掃除や片付けに関する語彙を実際に使わせるために、以下の質問に対する答えをワークシートに英語で書かせた。

How often do you clean your room? How long can you keep your room tidy? Which do you feel more comfortable, in a tidy room or in a messy room? (教科書の指導書より)

書き終わった後に、ペアでこれらの質問をしながら会話をする時間を取り、書くことを話す活動につなげた。ワークシートに書いたこと以外にもそれぞれが聞いてみたいことを質問をしてやりとりを続けていた。

生徒がワークシートに書いた英語を見ると、tidy と messy を逆の意味で使っていたり、品詞が間違っていたりして、このトピックで必要となる語彙や表現が正しく使えていないことが分かった。これも Focus on Form のアプローチで、生徒が実際に英語を使ってみて、上手いかなかったところを次回以降の授業で手当てした。

3.4. 「話すこと [発表]」を「書くこと」につなげる活動

[6 時間目]

Part 2 では、KonMari Method のルールや手順について読み、まとめの活動として retelling を行った。繰り返し本文の音読をし、各自で練習をした後に、4 人グループに分かれ活動を行った。近藤氏の講演会であるという設定で、発表者は近藤氏になりきって audience である残りの 3 人に向かって、KonMari Method を自分の言葉で説明した。自己紹介から始めて、メソッド以外にもこれまで教科書、ビデオ、本などで学んだことを自由に英語で付け加えて話していた。発表が終わったところで、近藤氏にぜひ聞いてみたいことを発表者の右隣に座っている生徒が質問し、発表者はまた近藤氏になりきって自由に答えた。ただ単に読んだことをもう一度英語で言うだけでなく、具体的な場面や人物を設定することで、聞き手を意識して、必要な情報を選択しながら話すことができていた。

発表が終わったあとには、話したことをワークシートに書く時間を設けた。相手に伝えて終わるだけでなく、書いてみることで文構造や語彙の使い方にも意識を向けることができ、より正確に英語を使うことにつながっていくと考えた。

3.5. 「読むこと」を「書くこと」につなげる活動

[9 時間目]

教科書本文をパートごとに読み終わったところで、さらにこのメソッドの philosophy の理解を深めてもらうために、近藤氏の著書『人生がときめく片付けの魔法』の英訳版である“The Life-Changing Magic of Tidying Up”の一部 (pp. 174-177) を読ませた。近藤氏自身の幼少期のことと、KonMari Method で部屋を整理することで子どものころに好きだったことなどが再発見でき、その後のキャリアの決定につなげる

ことができたという実際の顧客の体験談が具体的に説明されている。このメソッドの内容理解を深めることに加えて、高校2年生で進路に悩んでいる多くの生徒にとって進路やキャリアを考えるヒントにもなると考えた。

読んだ後に、“Putting your house in order is a great way to discover the things we really like.”という近藤氏の言葉が具体的にはどのようなことを意味しているのか、顧客の例を使って自分の言葉で説明するという writing の課題を与えた。この課題には以下のような基準で評価をつけた。

- A⁺ 近藤氏の言葉と友だちの例が両方とも十分に説明されていて、論理的な構成になっている
- A 近藤氏の言葉と友だちの例が両方とも十分に説明されている
- B 近藤氏の言葉または友だちの例のみ説明されている
- C どちらも説明されていない、別のことが書かれている

この書籍もまた英語の母語話者向けに書かれたものであり、英語が得意な生徒は10分ほどで読み終えてすぐに書き始めていたが、英語が苦手な生徒にとっては少し難しいだろうと考え、途中でほぼ同じ内容が書かれた日本語版の書籍の一部 (pp. 234-237) をヒントとして与え、手助けした。

この課題で生徒が書いた文章を読んでみると、生徒が本当に *KonMari Method* を理解できているかどうか分かった。背景知識を与えながら丁寧に授業を進めたが、やはりこのメソッドの抽象的な部分を理解できていない生徒が一定数いたため、課題の返却時には日本語で補足をした。言語使用の面では、近藤氏の言葉を書籍の中の表現ではなく、すでに教科書で習った別の言い方、例えばキーワードである *spark joy* (ときめき) などを使って説明できている生徒が少なかった。このレッスンでは教科書本文以外からも英語の *input* を多く与えたが、生徒はそれらを理解することにとどまり、必要な場面での使用には結びついていなかった。与えられた表現と内容を結びつけて、別の場面においても使うことができるようになることは次のステップであり、さらに練習が必要であると実感した。

3.6. レッソンのまとめとしての「話すこと [発表]」の活動

[11・12 時間目]

このレッスンのまとめとして、自分がどうしても捨てられないもの (an item that you cannot bring yourself to get rid of) について実物を見せながらスピーチをさせた。*KonMari Method* では、片付けをする際に自分がときめくかどうかで捨てる判断をする。生徒にもそれを体験してもらうために、捨てられないもの、つまり自分がときめくもの、自分の人生や生活において大事なものは何かを考えさせた。なぜ捨てられないかを考えることで見えてくる自分との関わりについて、スピーチをさせた。

本番ではメモを使って原稿を見ずに発表できるように，“Virtual Speech Coach”というウェブサイトの Speaking from Notes: The Keyword Method という記事 (<https://www.virtualspeechcoach.com/tag/using-keywords-in-speech-notes/>) を参考にワークシートを作成し、宿題で 150 ～ 200 語の原稿とメモを準備させた (資料 3)。生徒はクラス全員の前で捨てられないものを見せながらスピーチを行った。評価はワークシートにある 3 つの観点で行った (資料 4)。ただものを見せて話すだけでなく、見せ方や話の構成を工夫して、聞き手を意識して楽しませるようなスピーチになっていたかを評価した。聞いている生徒は、出席番号の下一桁が同じ生徒 (3 人) に対して英語でコメントを書くように指示し、それ以外は純粹にスピーチを聞くことに集中できるようにした。生徒はクラスメイトの新たな一面を知るようなエピソードを多数含むスピーチを聞くのをとても楽しんだ。友達や家族からもらったプレゼントや、自分が使っていたランドセル、トッシューズ、小学校や中学校で自分で作った作品など、思い出のある品を紹介した。幼い頃に両親が書いてくれたサンタクロースからの手紙などユニークな発表も多く、2 時間飽きることなく発表を聞いていた。発表する側も自分が好きなものや、大事なものに関して発表することがとても嬉しい様子だった。



図 3-1 発表の様子



図 3-2



図 3-3

4. おわりに

複数の言語領域を統合することによって、生徒が授業の中で実際に英語を使う機会をより多く作り出し、より深く内容を理解させることができた。また、複数の領域を組み合わせることでバラエティーに富んだ活動を取り入れていくことで、レッスンを通して生徒に同じような表現や内容を飽きずに繰り返し練習させることができた。教科書で学んだことを生徒の中で定着させ、適切な場面で正確に使用するためには、多くのトレーニングが必要となるが、1 つの領域で同じことを繰り返すのではなく、複数の領域を組み合わせることで、活動の内容や切り口を変えることで、生徒が飽きずに活動に取り組み、知らず知らずのうちに表現を身に着けることができる。

今回の実践では、内容理解を深めるために、複数の領域を組み合わせた活動を多く取り入れたが、レッスンで何を生徒に身につけさせたいかという目標によって、取り入れる領域の種類や組み合わせを変えていく必要がある。また、新科目「英語コミュ

ニケーション」においては、1年間や全体の3年間を見通して、どのような領域を組み合わせて扱っていくかということをしつかりと計画し、4技能5領域をバランスよく使えるようなカリキュラムを作っていくことが大事であるとする。

参考文献

近藤麻理恵 (2019).『人生がときめく片付けの魔法』河出書房新社.

文部科学省 (2018).『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』.

Kondo, M. (2014). *The Life-Changing Magic of Tidying Up*. Berkeley, California: Ten Speed Press.

Kondo, M. (2017). *Spark Joy*, London: Vermilion.

Tidying Up with Marie Kondo (Netflix)

"Breaking Free from a Mountain of Stuff"

Pre-listening Work with your partner.

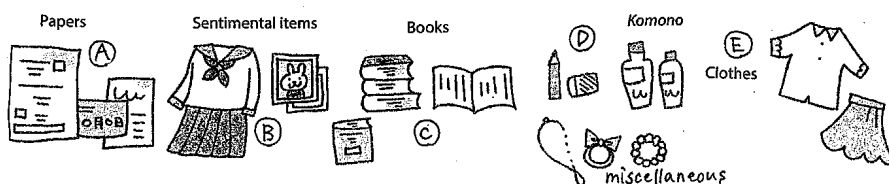
1. What do you know about *Marie Kondo*, *KonMari*?
2. Do you know any English words or phrases meaning “片付ける” and “捨てる”?
Make a list of the vocabulary.

片付ける

捨てる

While-listening

1. Add the words or phrases you hear in the video to the list above.
2. Kondo advises us to follow a certain order in tidying.
Arrange the following items in the correct order. ()⇒()⇒()⇒()⇒()



Spark Joy (p.7)より


Post-listening

What happened to the family?

How did the family change after they met *KonMari*?

Class_____ No._____ Name_____

effective

- ① learn not to be greedy
 - we'll have less things
 - be careful not to buy
 - economically beneficial
- ② tidy up in the morning 
 - we can refresh
 - complete it one day
- ③ change our mindset
 - we can have better life style

It's Effective !!

▶ Can keep only important things

▶ It changes our mind

▶ Can tidy up your mind and can relax

Doing it is difficult, but once doing it gives you a lot of benefits !!!

NOT Effective

1. not objective

The standard of feeling "Tokiwa" is different from people to people.

2. not space

In that movie, they could put all of their things into one room.

However, in our case, we don't have enough space to do that.

3. we might regret

Even if we throw things away we might think that we shouldn't have done that. So it may let them regret themselves for a while.

Effective

1. sustainable

2. mind set

3. change our life

Lesson 6

“What is an item that you cannot bring yourself to get rid of? Why?”

1. Write out your speech in 150-200 words. Describe what the item is like and the reasons why you cannot let it go. Pay careful attention to the introduction, the conclusion and the transitions.
2. Write out key words and phrases. You can also draw pictures/symbols. Try not to have more than 4-5 words per sentence or per line.
3. Prepare the item or its picture and show it to the audience in the speech.
4. **Speak to People, Not Paper!** Don't look at your notes and have your mouth moving at the same time. Eye contact while speaking is important for audience engagement. Look down. Grab a few key words on a line. Look up. Speak. Repeat.

() words

Class _____ No. _____ Name _____

Lesson 6 “What is an item that you cannot bring yourself to get rid of? Why?”

出席番号の下一桁が自分と同じ3人のスピーチのコメントを英語で書いてください。そのまま本人にフィードバックします。※評価をする必要はありません

評価 1) Performance: 聴衆を意識した話し方、表情、姿勢、アイコンタクト、ジェスチャーができていたか

2) Contents: 導入・本文・結びのパートがあり、それぞれの内容や量が適切であったか

3) Originality: 発表の仕方や内容に工夫があり聴衆をひきつけるような面白さがあったか

No. () Name ()

No. () Name ()

No. () Name ()

自分のスピーチの感想・反省

No. () Name ()